

いわて平泉米だより

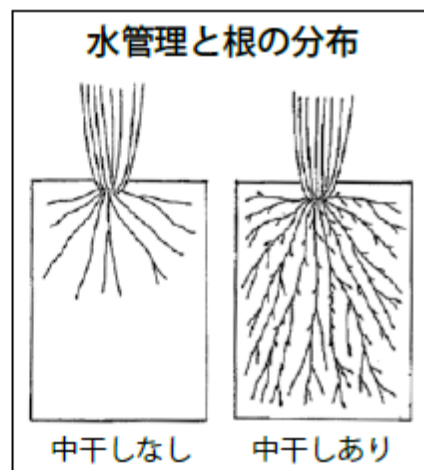
令和5年6月号

中干しを行い、活力のある稲を 作りましょう

- 1株当たりの茎数が25本程度になったら、降雨が比較的少ない6月25日までに開始し、幼穂形成期（7月10日ごろ）までに終わらせてください。
- 田面に小さな亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度が中干しの目安です。
- 中干しの後は間断かんがいで管理し、幼穂形成期には水深4～6釐になるようにしましょう。一度に深水にすると酸素欠乏になり、根に障害が出る場合があります。
- 中干しと併せて溝切りを実施することで、中干しの効果を高め、秋作業の地耐力を高める効果が期待されます。
- 中干しを実施した期間は、栽培管理記録簿に記入しましょう。中干しを十分に行ったか見返せるようにし、今後の栽培管理に生かしましょう。



JAのLINE公式アカウントにおいて営農情報等を発信します。
お友だち追加をお願いします。



▲中干しを実施した際の根の比較図